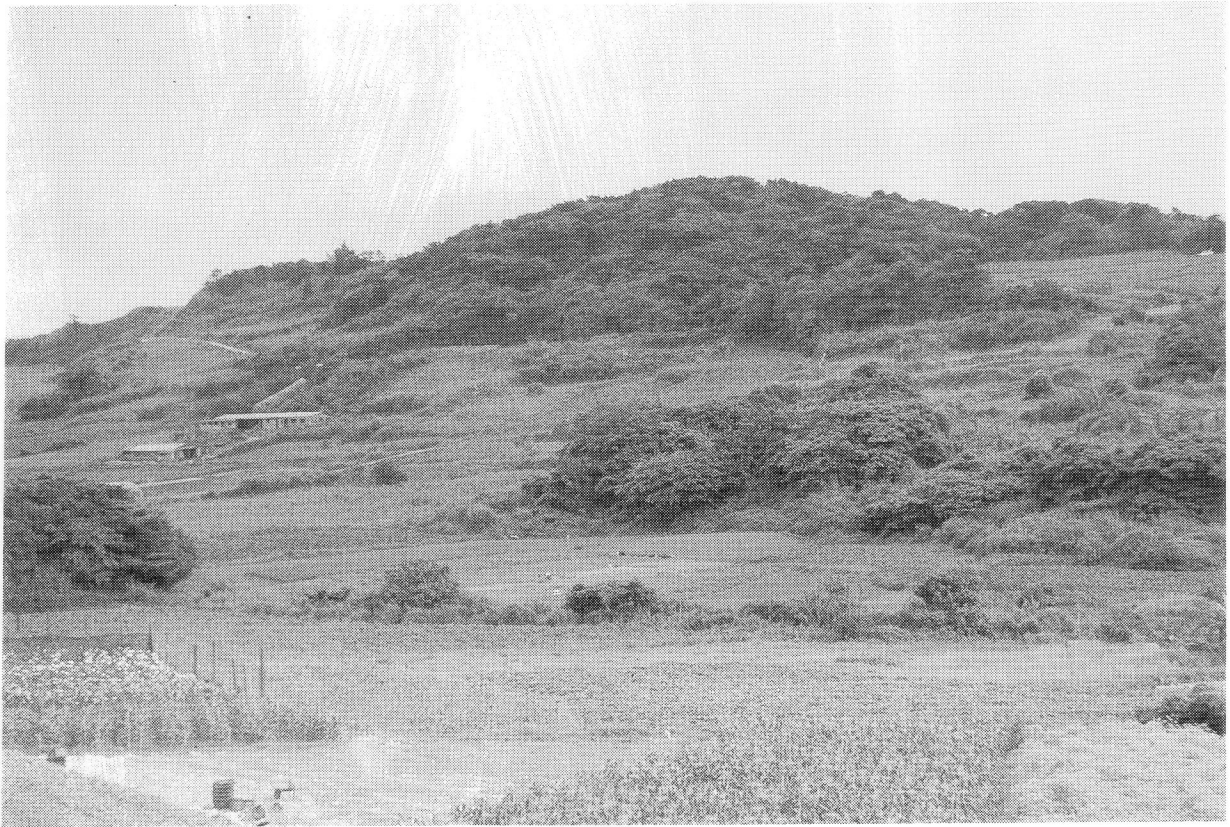


びん 保栄茂グスク



保栄茂グスク

保栄茂グスクは保栄茂集落の北東側にある標高約106mの丘陵に形成され、別名「ウグワンヤマ」ともいいます。

グスク内の北側には『琉球国由来記』に記載される殿（トゥン）といわれる広場があり、毎年旧暦の5月・6月のウマチーの日は字の役員、各門中の人々が集まって神酒を供えて祭祀が行なわれます。

グスクの調査はこれまで1967年に豊見城高校の郷土研究クラブと1987年に村内の遺跡分布調査の際に県文化課指導のもと試掘調査が行なわれています。

調査の結果、建物の「柱穴」と煮炊きを行なったと思われる「炉跡」が発掘され、その炉跡からは炭化した米、麦が検出されています。

出土遺物としては青磁、白磁、陶器等の輸入陶磁器や土器、鉄製品、青銅製品などが出土しました。これらの出土遺物からグスクは14世紀～15世紀に位置づけられ時期的に長嶺グスク等と重なるものと思われ、三山時代の南山の出城的なものであったと思われます。

